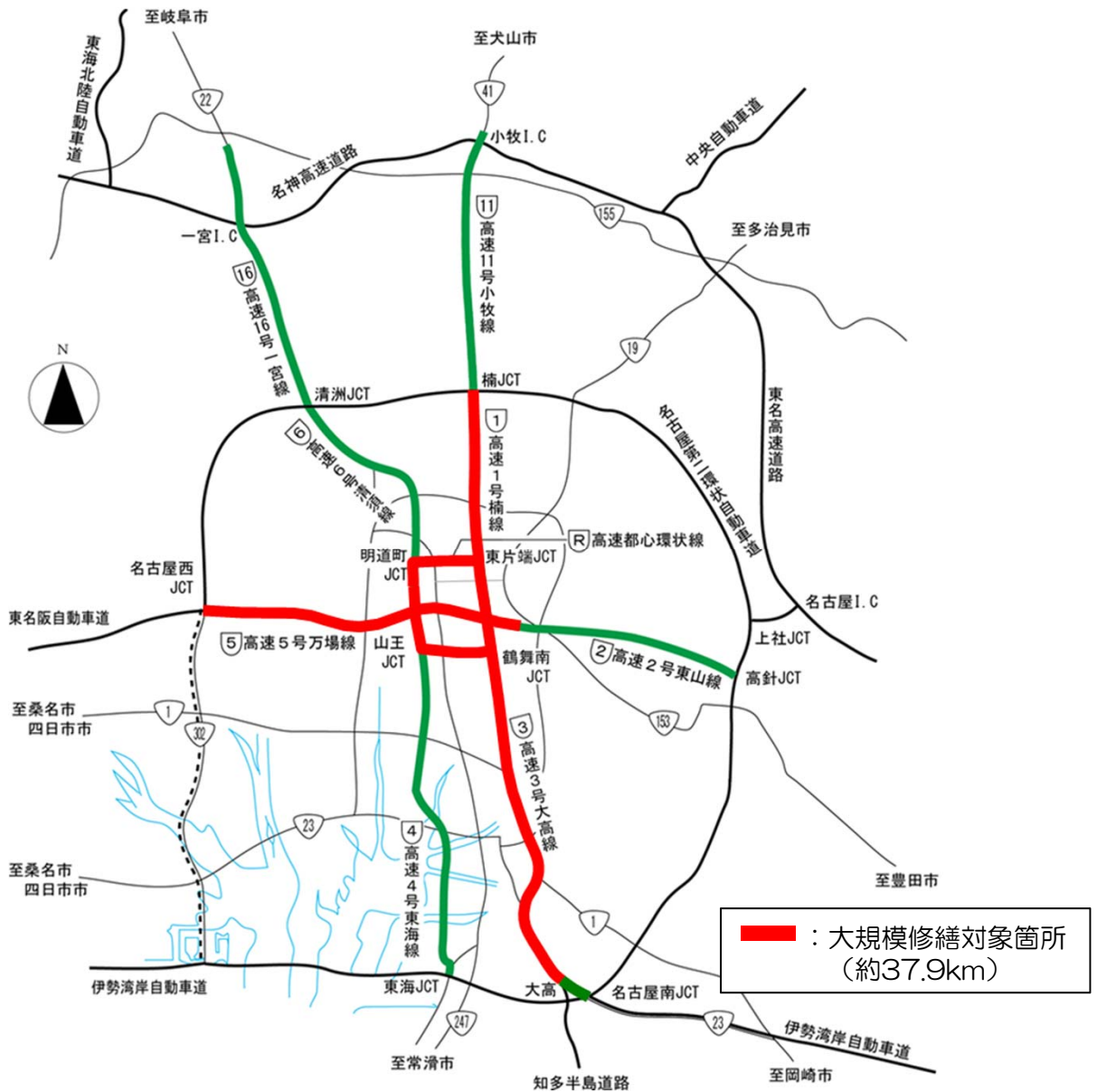


名古屋高速道路の大規模修繕計画（概要）

1. 大規模修繕の概要

- 第1期開通から35年が経過しており、供用からの経過とともに構造物の損傷が顕在化。
- 特に、古い基準で設計された構造物では、繰り返し補修を実施しても構造物の健全性を引き上げることが困難であり、今後、重大な損傷や第三者に被害を及ぼす損傷に進展し、通行止め等が発生する恐れがある。
- このような箇所について、主要構造物全体に対して計画的に大規模修繕を実施することにより、構造物の大規模な更新を回避し、長寿命化を図る。

2. 大規模修繕の対象箇所図



※古い基準の例

- ・昭和48年の基準で設計された鉄筋コンクリート床版で床版厚が薄い橋梁
- ・平成6年より前の基準で設計された車両大型化に対応した設計がされていない鉄筋コンクリート床版 など

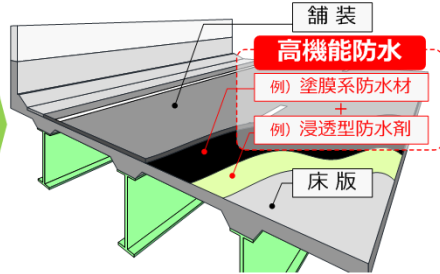
3. 大規模修繕の実施内容

上部工（RC床版上面）

床版上面コンクリートの
損傷・鉄筋腐食



【対策例】
高性能防水（※）など



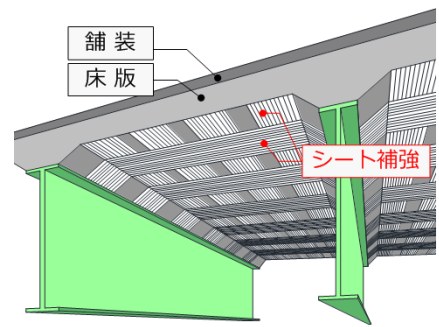
※) 舗装の打ち替え周期を考慮した耐久性を有する床版防水

上部工（RC床版下面）

格子状（2方向）のひび割れ

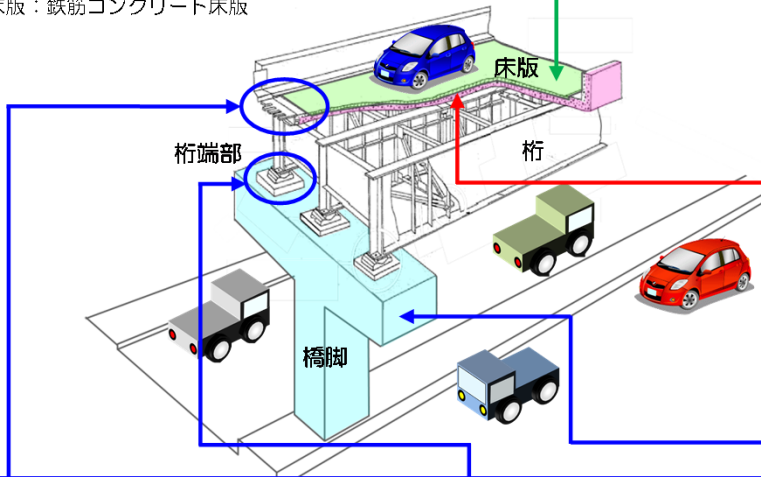


【対策例】
RC床版下面補強（※）など



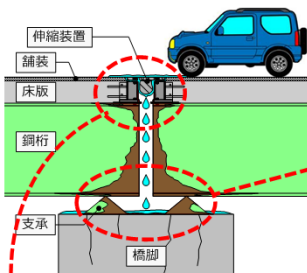
※) 繊維シートによる補強

RC床版：鉄筋コンクリート床版



下部工（桁端部・橋脚）

伸縮装置からの漏水により
橋脚・桁端部へ雨水等が流出



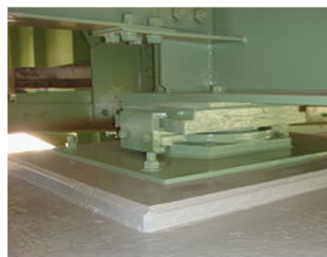
伸縮装置
非排水構造の改良

漏水しない構造への改良・措置を実施。

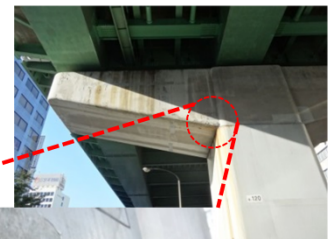
伸縮装置からの漏水による
桁端部や支承の錆・腐食



【対策例】
桁端部重防食塗装



橋脚梁部の
浮き・はく離・ひび割れ・錆汁



コンクリート片のはく落防止を
兼ねた表面保護を実施。